

シッチコモリグモ *Hygrolycosa umidicola* Tanaka

【選定理由】

主な生息環境は湿潤地・ヨシ原などで、県内で生息地は2ヶ所だけであり、個体数は極めて少ない。今後も土地開発等の環境破壊で激減する可能性が高い。

【形態】

体長雌 6~7.7mm、雄 5.7~6.1mm (田中, 2009)。雄背甲は黒褐色。中央は褐色で細い黒褐色の条がある。腹部背面は黒褐色。多数の斑と心斑は褐色が目立つ。全体に黒い印象を受ける。雌の背甲は茶褐色。中央は褐色で細い黒褐色の条がある。腹部背面は褐色で多数の黒褐色の斑がある。雌雄とも4脚の各節は褐色で、腿節に黒斑がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋市に分布する。

【国内の分布】

北海道、本州、九州に分布する (新海ほか, 2018)。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

豊橋市大村町では水田地帯に点在するヨシ原に生息している。同市小島町では水田が耕作放棄された後の湿潤地に生息している。幼体で越冬し、成体は5~8月にかけて見られる。雌は5~6月になると卵のうを糸器に着けた個体が観察される。

【現在の生息状況／減少の要因】

大村町では生息地の葦原が次々と埋め立てられ、宅地や駐車場等になっている。2012~14年の調査では、残された生息地は極めて限られていて、個体数は非常に少ない。2012~14年に実施した小島町での調査でも、環境変化は見当たらないが確認された個体は1~3頭である。もともと個体数が少ないと思われる。

【保全上の留意点】

現在生息が確認されているのは豊橋市大村町と小島町の2ヶ所である。生息環境は葦原や湿潤地だが、極めて生息域は狭い。土地開発は周辺部の環境も残すように保全すべきである。同時に、県内の新産地をさらに明らかにするよう努めることも必要である。

【特記事項】

同所にはコモリグモ類のキクツキコモリグモ (*Pardosa pseudoannulata*)・イナダハリゲコモリグモ (*P. agraria*)・キバラコモリグモ (*Pirata subpiraticus*)なども生息するが、体色が雄で黒褐色、雌で茶褐色をしているのは本種だけである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.158. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2017. 日本のクモ, p.139. 文一総合出版, 東京.

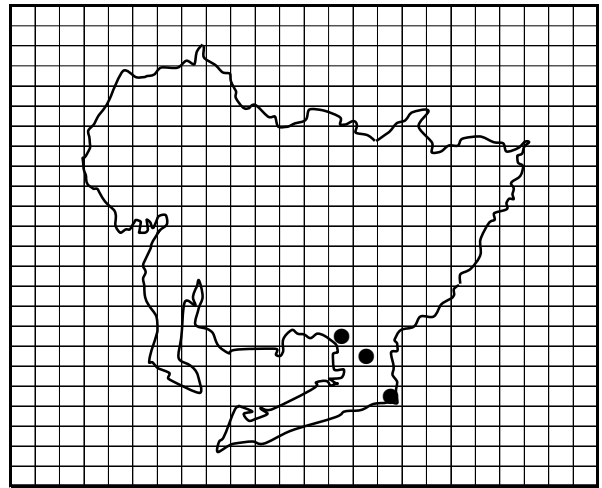
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.229. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.329,557. 東海大学出版会部, 神奈川.



♀. 豊橋市大村町, 2012年5月30日, 緒方清人 撮影

県内分布図



(緒方清人)